

**発達障がい者の親を
対象とした支援の強化を**
明 公

問 親が発達障がいを持つ自分の子どもを理解し、特性を踏まえた褒め方や叱り方を学ぶペアレントトレーニングを実施するのと同時に、さまざまな悩みや心配事についてのペアレントメンターによる個別相談窓口を設置すべきと考えるが所見を問う。

答 平成25年度から発達障がい児の保護者を対象としたPステップを実施している。ペアレントメンターによる相談対応は、公民館等の子育てサロン等で行っているが、個別相談対応は高い効果があると考えており、研修を強化するとともに、個別相談窓口の設置に向けて取り組む。

※ペアレントメンター
「発達障がい者の子どもを持つ親であつて、その経験を生かし、子どもが発達障がいの診断を受けて間もない親などに対して助言を行う者。」

**学校における
エアコンの完全実施を**
産 共

問 気象庁が「命に関わる危険な暑さ」という表現で冷房の活用を促す中で、本市の市立小中学校・高等学校の特別教室の大半と体育館は、エアコンが設置されていない。児童生徒、教職員の命と健康を守るために、全ての特別教室と避難所としての機能も有する体育館へのエアコン設置に着手すべき。

答 体育館や特別教室等に空調機を整備するためには、約300億円の多額の費用が必要となる。国の補助を含む財源の確保や、本市での教育課題の改善等、施策の優先順位を総合的に判断していく。

必要があり、今後の検討課題である
と考える。

**能古小・中学校の成果を生かし
小規模校の教育の充実を**
みらい 一

問 本市の西部地域には、北崎や今津、能古島など小規模校がある。能古小・中学校で実施される小中一貫教育は、教育の新たな試みとしてとても素晴らしい。他の小規模校にも教育施策の充実が望まれる。小規模校の活性化策など、今後の教育の充実に向けた教育長の所見を問う。

答 能古小・中学校で実施する教育の成果は、全市で実施している小中連携教育や他の小規模校の教育活動にも生かしていく。今後も、地域の実情などに応じて、交流活動や連携の在り方を工夫するなど、西部地域における小規模校の教育の充実に向けていく。

**保育士の処遇向上など
保育行政の充実を**
民 自

問 保育の質の向上を図る上で保育士不足の解消は非常に重要である。本市独自の事業である保育士への家賃補助は対象が限られているが、全ての保育士に行きわたる施策を講じるべきと考える。保育の質の向上に向けた新しい福岡方式として今後の取り組みを問う。

答 保育士家賃補助補助金については、保育の質の維持・向上の観点から、安定的に保育を行うことができる正規雇用の保育士を確保するため、対象を正規雇用の保育士としている。今後とも、保育協会や保育現場との協議を踏まえ、本市の保育の質の向上に向けた取り組みを進めていく。

**子どもの虐待防止推進の
取り組みの強化を**
無所属 一

問 幼い子どもが虐待死するケースが後を絶たない。虐待は未然に防ぐことができるという認識に立ち、最新の情報を学び続け、さらに、小さな兆候を見逃さないために、関係機関との情報の共有化や地域で見守る策を新たに講じる必要がある。子どもの虐待防止に対する決意を問う。

答 子どもの虐待防止については、小さな兆候を見逃すことなく早期に支援を開始して虐待防止につなげていくとともに、虐待事案に対しては絶対に許さないといい厳しい姿勢で、こども総合相談センターや保健福祉センターを中心に取り組みを進めていく。

**市は地域の声を空港運営に
どのように反映するのか**
民 自

問 空港南部の地域は、都心部方面へのバスが少なく不便である。例えば、移転補償跡地を活用してバスの営業所をつくり、空港周辺地域を巡回するバス路線を開設するなど、運営会社には思い切ったことをしてほしい。市はどのように地域の声を運営会社に届け、空港運営に反映していくのか問う。

答 地域に配慮した空港運営は不可欠であると認識している。運営会社とパートナーシップ協定を締結するとともに、独自協議の場を設置しており、今後とも、地域住民に十分配慮しながら、運営会社と協働して取り組みを進めていく。

する空港機能強化策を実現するためには地域共生策を早期に実現し、地域の理解を得ることが不可欠である。市は運営会社とどのように連携していくのか市長の決意を問う。

**市と運営会社が相互に協力
し、密接かつ持続的に連携
できるようなパートナーシップ協定
を締結するとともに、独自協議の
場を設置した。今後とも、福岡空港
がアジアの玄関口としてさらに発
展し、アジアのリーダー都市として
大きく飛躍するよう、地域住民に
十分配慮しながら、運営会社と協
働して取り組みを進めていく。**

答 市と運営会社が相互に協力し、密接かつ持続的に連携できるようなパートナーシップ協定を締結するとともに、独自協議の場を設置した。今後とも、福岡空港がアジアの玄関口としてさらに発展し、アジアのリーダー都市として大きく飛躍するよう、地域住民に十分配慮しながら、運営会社と協働して取り組みを進めていく。

**養子小学校の跡地活用は地域や
市にとって魅力あるものへ**
民 自

問 養子小学校の跡地について、地域をはじめ跡地活用会議での意見をしっかりと受け止め、民間活力を最大限に引き出し、より良い跡地活用となるようスピード感を持って取り組んでほしい。昨年の6月議会で検討の方向性などについて質問したが、その後どのように検討を進めているのか問う。

答 跡地活用の検討状況については、民間アイデアの提案や地域からの意見を踏まえ、本年8月24日に開催した跡地活用会議に、跡地活用方針の素案を示し、おむねの了解を得ている。今後とも、本年度中に予定している事業者公募に向け、検討を進めていく。

**災害に対する総合的
実効性の高い対策を**
明 公

問 いつ起こるか分からない災害に対し、防災の意識向上と地域主体の防災まちづくり活動を行政が支援し、災害の危険性や防災の必要性について住民に理解

してもらいながら自助・共助の実践につなげるなど、総合的かつ実効性の高い防災・減災対策の取り組みについて決意を問う。

答 平常時から市民の防災意識や地域の災害対応力を高めることが重要と考える。市民の生命と財産を守ることを第一に、自助、共助、公助それぞれの防災力を結集した総合的な防災体制の構築など、災害に強いまちづくりを進め、防災先進都市・福岡を目指していく。

**若久三丁目の交差点の
安全対策のための信号機設置を**
みらい 一

問 南区若久通りから若久公園へ入る交差点は、交通量が多いにもかかわらず、車両用信号機の設置は若久通り側のみであり、車両と自転車との接触事故が多発している。抜本的な安全対策として車両用信号機を設置する必要があると考えるが、当該交差点の今後の安全対策の所見を問う。

答 当該交差点の安全対策としては、車両用信号機の設置が望ましいと考えているが、市道三宅若久線の道路幅が必要であり、地権者を含め、地域の合意形成がなされたときには、信号機が設置できる交差点となるように道路拡幅に取り組んでいく。

**自転車の利用環境の改善に
向けた取り組みを**
みらい 一

問 天神ビッグバンをはじめとする、世界に目を向けた都市戦略を持つ本市にとって、自転車を都市機能の一部として取り込むことは、まちの発展を国の内外にアピールする重要な魅力となる。自転車の利用環境の改善に向けた今後の取り組みについて所見を問う。

答 市民はもとより、来街者が安全に自転車を利用できるように、自転車は車両であるとの原則に基づき自転車通行空間の整備を進めるとともに、自転車の走行ルール・マナーの啓発や教育に当たっては、警察や地域と協力しながら、自転車の利用環境の改善に向け取り組んでいく。

**道路整備の路線の選定には
明確な指標を**
無所属 一

問 道路整備アクションプランで優先的に整備する道路を決めているが、指標が明確でない。街灯がなく暗い危険な道や、遠回りしなければならぬ通学路等があるが、具体的にどのような評価をしているのか。評価指標について、市民に分かるようにしてほしいが所見を問う。

答 次期道路整備アクションプランの策定に当たっては、安全・安心はより重要な視点になると考えており、教育委員会等と連携しながら、交通量に加え、安全・安心やユニバーサル等の視点もさらに重きを置いて検討していく必要があると考えている。

- 「」のほかの主な質問**
- 室見川の治水対策
 - 市民活動の支援について
 - 自立支援に向けた介護について
 - 本市の医療費助成制度について
 - 生活困窮者への住宅支援及び就業支援について
 - 大規模集合住宅のまちづくりについて
 - 九大移転に伴う学研都市周辺のまちづくりについて